

東濃農林事務所の普及活動状況

令和7年8月

安心で身近な「ぎふの食」づくり

■酒米（酔むすび）・新酒米による産地づくり研究会

「酔むすび」の生育状況の確認と酒蔵との意見交換会を開催

8月20日、瑞浪市日吉町で第2回新酒米による産地づくり研究会が開催され、生産者等55名が出席した。

研究会では、県が育成した酒造好適米品種「酔むすび」の採種ほ場を見学し、東濃、恵那管内の生育状況について、検討が行われた。農業普及課から、現地実証ほ11カ所の生育状況について順調に進んでいることを報告した。その後、「酔むすび」を利用している酒蔵を交えて、その評価と今後の展開について情報交換が行われた。出席した10社の酒蔵からは、「酔むすび」の地域と密着した酒づくりについて、取り組みの現状と今後の方針など前向きな意見を多くいただき、今後の活動に期待がもてる結果となった。

研究会は、「酔むすび」の生産技術の平準化と品質向上等を目指して、令和6年に設置され、生産者等21組織で構成されている。農業普及課は、研究会会員の一員として、栽培技術の向上を通じて、「酔むすび」のブランド化を支援していく。



【採種ほ場の状況を説明する普及指導員】



【研究会 県代表あいさつ】



【実証状況を説明する普及指導員】



【酒蔵との意見交換会の状況】

ぎふ農畜水産物のブランド展開

■にんにく・栽培に関心がある生産者等 にんにく栽培研修会を開催

8月18日、JAとうと瑞浪支店でにんにく栽培研修会が開催され、生産者等23名が出席した。

にんにくは、秋の稲刈り後に定植し、田植え後の6月に収穫できることから、一部の組織経営体で栽培がおこなわれている。JAとうとは、にんにく栽培の拡大を図るため、関心がある生産者を対象に栽培研修会を開催した。

研修会では、農業普及課からにんにく栽培の概要、JA全農岐阜から病害虫や生理障害対策について説明を行い、にんにく栽培の基礎を理解してもらった。資材業者から土づくりの重要性とその資材の特性を、販売先からは契約出荷の概要について説明が行われた。

水稻栽培中心の組織経営体が、にんにく栽培に前向きな意向を示しており、JAでは、新たな品目の導入拡大に向けた活動を展開していく。

農業普及課は、実証ほを設置して地域に適した栽培暦を作成するなど、新たな産地づくりを支援していく。



【研修会の状況】